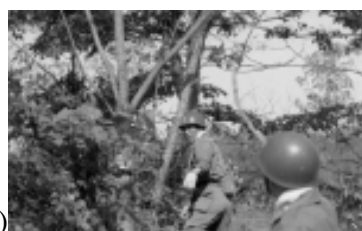


先日、然別演習場で行われた師団射撃競技会を研修して頂いた某町長から、面白い話を聞いた。昭和 56、57 年頃、バッタが異常に発生して、自衛隊さんに助けて頂いたと。まるで、明治十勝開拓の初期、依田勉三等がバッタに悩まされ、その祭のバッタ塚が今尚残っているけれども、その話を彷彿とさせる話であった。災害派遣として出動したのかと思ひ、調べてみたが、どうもそうではないようだ。第 5 師団が実施した災害派遣や民生協力のうち、一寸変わった珍しい(?) 活動を紹介します。

① バッタ騒動記(第二のバッタ塚発見)



(下鹿追神社のバッタ塚)



北海道では十勝地方が、その開拓の当初から多くのバッタ襲来の被害に遭っている。古くは、朔東から第 78 号で紹介したように、明治 13 年 8 月、突然十勝の奥地河西、中川両郡にトノサマバッタの大群が発生し、大変な被害をもたらした。『日蝕のように太陽がかげったり、地表は見渡す限りバッタでおおわれて、足の踏み込む余地もないという始末だった。バッタの去った跡は青いもの一つ見当たらず、一面剥ぎ取ったような赤土となって、作物は勿論、外に干してあった衣類までも跡形もなく食い尽くしたという異常な光景であった。この時には、三百数十億匹のバッタを駆除した。』(以上明治のバッタ被害についての記述である)

鹿追町の然別川流域は、バッタの産卵地であり、明治の大災害以降も小規模ながら異常発生が見られた。近年の特筆すべきバッタ被害は、昭和 55 年に発生している。

昭和 55 年 6 月、鹿追町は時ならぬバッタの大群に襲われた。この時のバッタは然別川の紅葉橋下流の河川敷一帯を発生源とし、種類はハネナガフキバッタと言うもので、食餌植物は、イタドリ、フキ、ヨモギ等の野草やハンノキ、ニレなどの樹木の葉を好んで食べたようだ。同月 21 日、町役場での防除対策を協議した結果自衛隊鹿追駐屯地にも応援を求め、駐屯地司令以下 110 名の隊員が出動し、対策本部員と共に一斉駆除作戦を開始した。この時に処理したバッタの推定量は、およそ七億匹である。同年 8 月に、地域の人々や関係者から『害虫とは言え、7 億という生命を絶ったのだから、その霊を慰め、更に二度とこのような災害が発生しないように』との願いをこめてバッタ塚を建立することになった。バッタ塚は、下鹿追神社敷地内に建立され、9 月 22 日にバッタの供養と除幕式を行った。町長によると、火をつけるとバッタはバタバタと墜落するが、火が消えると次々にまた飛び上がっていくという。巧みに地面近くで熱さを避けていたようだ。

このときの状況が新聞報道されている。

(参考：鹿追町史 etc)

② (常呂港) 流氷爆破に関する災害派遣



(流氷の爆破写真)

昭和 46 年 3 月 26 日、網走支庁管内常呂町の常呂港に侵入した流氷群(密氷)により、港内に船舶が閉塞され、且つ圧壊の危険があるため、流氷爆破による圧壊防止及び航路確保に関して災害派遣を要請した。要請を受けた第六普通科連隊長は、同日、本部管理中隊作業小隊長 T 1 尉以下 12 名を現地に派遣して、任に当たらせた。

その概要次の通り。

港内に侵入した密氷は、徒歩行動が完全に実施できる状態であった。先ず、船舶圧壊防止の為に 60m×70m の水域を TNT 爆破薬で啓開した。時に氷厚 40cm であった。翌日には、幅 8m 乃至 10m、距離 165m の水路の啓開を実施した。総啓開域 6000 m²、TNT70kg 使用、述べ 24 人日の特異な災害派遣であった。

③ 熊害に関して

災害派遣の対象となる獣類は、熊等の猛獣類であって、とどやいのししは含まないものと解されている。全国で唯一の事例であるが、脱走した猛獣捕獲の際には、災害派遣が要請されている。災害派遣として受理する場合でも、通信支援や輸送支援等になり、隊員が小銃で射殺することは一般的にはあり得ない。朔東から第 25 号で紹介した罠を撃った自衛官というのは稀有な例である。

第 5 師団の災害派遣の歴史の中で、帯広市西帯広 (S38) 及び美幌町(S45)の 2 回のみで、何れも通信支援である。もっと出動しているのかと思ったが、意外に少ない。

④ 豪雪災害への対応

近年の地球温暖化の影響があるのかどうか、近年では豪雪災害に伴う災害派遣が少なくなっている。豪雪により孤立した地域への糧食輸送、医師や患者の空輸、小中学生の輸送、営林署員の救出、帯広駅・池田駅構内の除雪、立ち往生車両からの救出、行方不明者の捜索等多彩である。中でも、昭和 45 年 3 月 18 日の特急おおぞらの救出は異色だ。根室本線新得～芽室間において豪雪に引き続く吹雪の為に根室本線が不通となり特急「おおぞら」が立ち往生したので、隊員約 1,600 名が出動して除雪と不通箇所の掘開を行って救出した。翌日には、乗客 600 名弱に対して食糧輸送も行っている。釧網線清里付近でも孤立列車乗客に対する食糧等の輸送を行っている。

(参考：師団司令部防衛班資料等)